

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
担当 : 田添 篤史	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在しています。この講義では第2回から第17回においてミクロ経済学、第18回から第30回でマクロ経済学を取り扱います。この講義を通じて主流派経済学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。

授業計画

第1回	授業の目標, 評価方法の説明	第16回	完全競争市場での余剰
第2回	経済学の全体像 - 様々な考え方	第17回	市場の状態と資源配分
第3回	ミクロ経済学の基本像	第18回	マクロ経済学の基本像
第4回	消費者の理論導出の準備	第19回	財の総供給
第5回	限界効用理論	第20回	消費の決定と財の需要
第6回	無差別曲線とは何か	第21回	財市場均衡
第7回	予算線と最適消費点の決定	第22回	債券、利子率、流動性
第8回	所得の変化と最適消費点の変化	第23回	貨幣を需要する動機
第9回	代替効果と所得効果	第24回	貨幣の需給一致
第10回	短期と長期、利潤概念	第25回	投資の理論
第11回	平均費用、限界費用	第26回	IS曲線の導出
第12回	利潤最大化と生産量決定	第27回	LM曲線の導出
第13回	損益分岐点と操業停止点	第28回	政策の効果
第14回	独占企業の生産量決定	第29回	経済成長の源泉
第15回	市場均衡とその安定性	第30回	所得格差と成長

教材・テキスト・参考文献等

テキスト

石川秀樹（著）中央経済社
『試験攻略 新・経済学入門塾 1 マクロ編』
『試験攻略 新・経済学入門塾 2 ミクロ編』

このほか、資料を配布します

成績評価方法

毎回の感想と質問：30%
定期試験：70%